

第8回日独脳神経外科合同会議（第71回ドイツ脳神経外科学会年次総会）報告

2020年6月21～24日第8回日独脳神経外科合同会議（第71回ドイツ脳神経外科学会年次総会）が開催されました。かつてハンザ同盟の盟主として繁栄したドイツ連邦共和国・リューベック市での開催予定でしたが、新型コロナ禍のためにオンラインでの開催となりました。

日本脳神経外傷学会からの推薦、日本脳神経外科学会からの派遣の形で、プレナリーセッション「Trauma and Intensive Care」において、演者として中山晴雄先生（東邦大学大橋病院脳神経外科）、共同座長として刈部博（仙台市立病院脳神経外科）が参加しました。

オンラインでの学会は、Zoomを使用して行われました。Zoomでは3つの仮想会議室が設けられていました。座長・演者全員はセッション開始1時間前に仮想準備室に入室してセッションの進行等についてレクチャーを受け、セッション開始時に仮想プレゼン室に入室。仮想プレゼン室ではあらかじめ登録されていた各演者のプレゼンテーション動画が順に流れ、座長はリアルタイムで司会・進行し、その様子がWeb配信されます。全てのプレゼンテーションが終了すると、仮想討議室に全演者・座長が移動、質問等のある視聴者も仮想討議室に入室してディスカッションが行われます。

普段の学会とは全く異なる形式で、通信環境によっては不具合もあったようですが、あまり聴講することのない貴重な内容の発表も多く、大変勉強になりました。中山先生の発表も、特に本邦におけるスポーツ頭部外傷診療の実状についての質問など、興味を持たれた視聴者も多いようでした。演者の一人、ハイデルベルグ大学のUnterberg教授が、「近年、頭部外傷に関する英文論文は増加の一途であるが、日独両国ではあまり伸びていない」ことを憂慮されており、今後の課題として強く印象に残りました。

令和2年7月22日

日本脳神経外傷学会理事
仙台市立病院脳神経外科
刈部 博